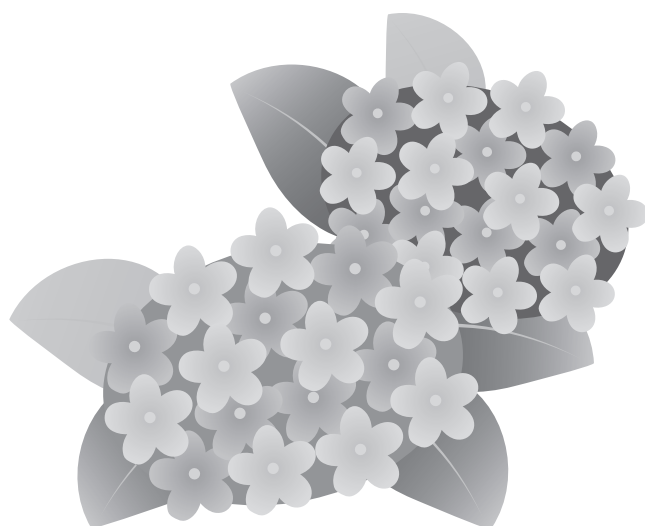


第16回 保育実践研究 報告集

令和 4 年 3 月



社会福祉法人 日本保育協会

はじめに

平成18年度からスタートした「保育実践研究」は、おかげさまで本年度、第16回を迎えることが出来ました。

各施設で本研究をご執筆されていた令和3年は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、従来の保育業務に加えて、感染症対策の一層の強化を講じなければならない状況でしたが、本年度は22件という過去最多のご応募をいただきました。

これもひとえに関係各位のご協力のおかげと厚く御礼申し上げます。

昨今、保育所や認定こども園では保育士不足が問題になっています。

その理由の中に離職者が多いことがあるのであれば、保育士が働く環境を見直す必要があります。

ある保育所では、自分たちの保育を見直したところ、質の向上だけでなく、業務改善につながったという事例もあります。

私たちは、保育士が日々の保育実践の中から課題を見つけ、それを分析し、検討を加え、より良い方向へと改善するというこの「保育実践研究」が、保育の質向上の近道になると考えます。

この事業は、あくまで保育実践の研究について募集したものであり、各施設における保育内容の評価を目的としたものではありません。

皆様により積極的に応募していただけるよう、私たちは課題等についてさらに検討を加え、今後の募集に生かしたいと考えています。

内容がより充実していくことを期待し、あわせて積極的に皆様が保育研究を行っていただくことを願っています。

令和4年3月

「保育実践研究」企画審査委員会

第16回「保育実践研究」募集要項（概要）

1. 目 的

日本保育協会では、保育の専門性の向上を図るため、日々の保育を振り返り、検証していく保育実践に関する研究を募集します。

応募いただいた研究は審査を経て表彰し、報告集やホームページ、「保育界」等で公表することにより、今後の保育内容の向上と充実に資することを目的とします。

2. 主 催

社会福祉法人 日本保育協会（日本学術会議協力学術研究団体）

3. 応募資格

日本保育協会会員施設の施設長、職員（個人研究、施設内グループ研究、地域のグループ研究等）及び保育科学研究所研究会員（保育所等との共同研究を含む）

※委託を受けた外部の講師等は対象外。

4. 部 門

(1) 課題研究部門

以下からテーマを選び、課題や取り組みについてまとめてください。なぜそれに関心を持ったのか、それを解決するためにどのような仮説を立てたのか、保育にどのように取り組んだのか、そこからどのような発見、気づきがあったかを、出来るだけ掘り下げてください。必ずしも問題解決の成果や成功例を求めているわけではなく、課題の発見とその解決に向けたプロセスをまとめてください。保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、具体的にどのように実践されているかを示す機会としてお考えください。

① 人との関わり

子どもが人への信頼感や主体性、社会性を形成していくために人間関係は大切です。子どもと人との関係性をつないでいくための関わりについて取り組みをお寄せください。

② 遊びと学び

遊びや日々の生活においても子どもが学ぶ機会はたくさんあります。日常的な遊びや生活が学びにつながっていくことについての取り組みをお寄せください。

③ 子どもの健康・安全

具体的な取り組みの内容をお寄せください。

④ 【第16回特別テーマ】新型コロナウイルス感染症対策について

具体的な取り組みの内容をお寄せください。

(2) 自由研究部門

テーマは自由です。下記の例に限らず、幅広いテーマで課題や取り組みについてまとめてください。

- (例)
- ・施設での実践事例（特別な配慮が必要な子どもの保育、乳児保育での課題、苦情解決の取り組み、保育環境向上のための取り組み（物的、人的）、入所（園）の際の配慮、保育日誌の工夫・改善等）
 - ・人材育成の事例（園内研修の取り組み、研修を職員間で活かす取り組みなど）
 - ・地域における公益的な取り組みの事例（子育て家庭への支援・地域との連携など）
 - ・災害への対応（防災計画の策定等）
 - ・新型コロナウイルス感染症以外の感染症対策の取り組み

5. 審査において評価する内容

応募作の評価は企画審査委員会が行います。目的や課題を明確に示し、それに対しどのように取り組んでいったかという経過等について、事実を基に客観的・具体的に記述され、その結果に対して考察がなされていることが大切です。また、問題提起が明確か、論旨が通っているか、オリジナリティはあるか、データは適切か等についても評価を行います。

第16回「保育実践研究」審査結果報告

今回の第16回「保育実践研究」では22件のご応募がありました。

「保育実践研究」企画審査委員会において審査を行った結果、最優秀賞1件、優秀賞3件、研究奨励賞12件、奨励賞3件となりました。

なお、入賞作一覧は次ページの通りです。

受賞作の研究報告は、7ページより掲載いたします。

第16回「保育実践研究」入賞作一覧

○最優秀賞

・自由研究部門

地域資源と子育て親子の繋がりをプロデュースする～“地域まるごとエンパワメント”を目指して～

脇田 和子、都竹 菜美子、津田 安紗美（岐阜県・黒野こども園 子育て支援センター “ゆずりは”）

○優秀賞

・課題研究部門②遊びと学び

3歳児の遊びと学び「むしのせかい」

白井 元子（京都府・ひいらぎこども園）

・課題研究部門③子どもの健康・安全

新型コロナウイルス感染症流行期における「健康教育」～「いのちをまもる」～

藤井 瑠美（東京都・葛西大きなおうち保育園）、佐藤 尚穂（東京都・船堀中央保育園）

・自由研究部門

1人ひとりの個性やこだわりを大切にすること—子どものあそびへの関わりから見えてきたもの—

鶴見 京子、浅香 聡彦（石川県・大徳学園）

○研究奨励賞

・課題研究部門①人との関わり

虫を呼ぼう大作戦～協同性・仲間と力を合わせた目的の実現～

山浦 律子（福島県・幼保連携型認定こども園南町こども園）

・課題研究部門②遊びと学び

子どもが「探究」しやすい環境づくり—宇宙プロジェクトを通して—

柏木 あずさ（神奈川県・大野村いつきの保育園）

子どもの主体性から生まれた学び～日常の延長上に運動会を捉える～

鍋谷 須美子（富山県・幼保連携型認定こども園西田地方保育園）

・課題研究部門③子どもの健康・安全

生きる力を育む炊き出し訓練

桑田 幸生、野村 美樹、伊藤 千晶、大塚 裕子、大塚 貴史（神奈川県・子中保育園）

運動を通して育つ健康な体と心～こども一人ひとりの心身の発達をめざして～

仲西 久美子（沖縄県・第2愛心こども園）

- ・課題研究部門④【第16回特別テーマ】新型コロナウイルス感染症対策について
お互いの命を守ること、子ども達の命と学びと遊びを守ること
◎新型コロナウイルス感染症対策プロジェクトチーム結成による実践報告
新型コロナウイルス感染症対策プロジェクトチーム（東京都・社会福祉法人東京児童協会）
馬場 与志子（すみだ川のほとりに笑顔咲くほいくえん）、前島 記子（ひらがなのツリーほいくえん）、石田 安方（台東区立たいとうこども園）、斎藤 香織（事務局）

- ・自由研究部門

感覚統合の視点を持った保育

伊丹 陽（福島県（研究会員）・ユーパロ室ノ木保育園 ユーパロつつみ分園）

保育室ジャングル計画～昆虫に夢中！集中！成長中！～

中村 鮎美（東京都・羽村まつの木保育園）

園内研修からの保育者の振り返り、次へのステップ

井上 美幸（東京都・府中めぐみ保育園）

遊戯室の利用実態Ⅰ—保育者の気づきに着目して—

浅香 聡彦、藤井 しのぶ、安田 未有（石川県・大徳学園）

五感を刺激する関わり

青野 ちひろ（愛知県・光徳保育園）

「思いやりの心」を育むことこそ「道徳教育」に繋がることを発見した

儀間 千夏、眞喜屋 亜沙子（沖縄県・愛心こども園）

○奨励賞

- ・課題研究部門②遊びと学び

やってみたいが溢れる保育～子どもの声から広がる遊び～

申 珠鈴、中 綾（埼玉県・（公財）鉄道弘済会与野本町駅前保育所）

- ・自由研究部門

2歳児クラスにおけるごっこ遊びの実践

佐藤 匠（東京都・みつばち保育園）

色水遊びを通して

尾関 邦子、大内 明美（滋賀県・幼保連携型認定さくらがおかこども園）

目 次

はじめに

第16回「保育実践研究」募集要項（概要）

第16回「保育実践研究」審査結果報告

第16回「保育実践研究」入賞作一覧

1. 総 評

総 評	3
委員長 小林 芳文	

2. 入賞作の紹介及び講評

(1) 最優秀賞

〈自由研究部門〉

地域資源と子育て親子の繋がりをプロデュースする～“地域まるごとエンパワメント”
を目指して～

脇田 和子、都竹 菜美子、津田 安紗美（岐阜県・黒野こども園 子育て支
援センター “ゆずりは”）…………… 7

(2) 優秀賞

〈課題研究部門〉

- ・ 課題研究部門②遊びと学び

3歳児の遊びと学び「むしのせかい」

白井 元子（京都府・ひいらぎこども園）……………17

- ・ 課題研究部門③子どもの健康・安全

新型コロナウイルス感染症流行期における「健康教育」～「いのちをまもる」～

藤井 瑠美（東京都・葛西大きなおうち保育園）、佐藤 尚穂（東京都・船堀中央
保育園）……………24

〈自由研究部門〉

1人ひとりの個性やこだわりを大切にすること—子どものあそびへの関わりか
ら見えてきたもの—

鶴見 京子、浅香 聡彦（石川県・大徳学園）……………30

(3) 研究奨励賞

〈課題研究部門〉

・課題研究部門①人との関わり

虫を呼ぼう大作戦～協同性・仲間と力を合わせた目的の実現～

山浦 律子（福島県・幼保連携型認定こども園南町こども園）……………41

・課題研究②遊びと学び

子どもが「探究」しやすい環境づくり—宇宙プロジェクトを通して—

柏木 あずさ（神奈川県・大野村いつきの保育園）……………47

子どもの主体性から生まれた学び～日常の延長上に運動会を捉える～

鍋谷 須美子（富山県・幼保連携型認定こども園西田地方保育園）……………55

・課題研究部門③子どもの健康・安全

生きる力を育む炊き出し訓練

桑田 幸生、野村 美樹、伊藤 千晶、大塚 裕子、大塚 貴史（神奈川県・子中保育園）……………63

運動を通して育つ健康な体と心～こども一人ひとりの心身の発達をめざして～

仲西 久美子（沖縄県・第2愛心こども園）……………76

・課題研究部門④【第16回特別テーマ】新型コロナウイルス感染症対策について お互いの命を守ること、子ども達の命と学びと遊びを守ること

◎新型コロナウイルス感染症対策プロジェクトチーム結成による実践報告

新型コロナウイルス感染症対策プロジェクトチーム（東京都・社会福祉法人東京児童協会）

馬場 与志子（すみだ川のほとりに笑顔咲くほいくえん）、前島 記子（ひらがなのツリーほいくえん）、石田 安方（台東区立たいとうこども園）、齋藤 香織（事務局）……………82

〈自由研究部門〉

感覚統合の視点を持った保育

伊丹 陽（福島県（研究会員）・ユーパロ室ノ木保育園 ユーパロつつみ分園）……………88

保育室ジャングル計画～昆虫に夢中！集中！成長中！～

中村 鮎美（東京都・羽村まつの木保育園）……………94

園内研修からの保育者の振り返り、次へのステップ 井上 美幸（東京都・府中めぐみ保育園）	101
遊戯室の利用実態Ⅰ—保育者の気づきに着目して— 浅香 聡彦、藤井 しのぶ、安田 未有（石川県・大徳学園）	108
五感を刺激する関わり 青野 ちひろ（愛知県・光徳保育園）	120
「思いやりの心」を育むことこそ「道徳教育」に繋がることを発見した 儀間千夏、眞喜屋亜沙子（沖縄県・愛心こども園）	125

（4）奨励賞

〈課題研究部門〉

・課題研究部門②遊びと学び

やってみたいが溢れる保育～子どもの声から広がる遊び～

申 珠鈴、中 綾（埼玉県・（公財）鉄道弘済会与野本町駅前保育所）	135
----------------------------------	-----

〈自由研究部門〉

2歳児クラスにおけるごっこ遊びの実践

佐藤 匠（東京都・みつばち保育園）	142
-------------------	-----

色水遊びを通して

尾関 邦子、大内 明美（滋賀県・幼保連携型認定さくらがおかこども園）	148
------------------------------------	-----

「保育実践研究」企画審査委員会

委員長 小林 芳文（横浜国立大学名誉教授・和光大学名誉教授）

天 野 珠 路（鶴見大学短期大学部教授）

石 川 昭 義（仁愛大学教授）

高 木 早智子（埼玉県・花園第二こども園園長）

田 和 由里子（広島県・春日こども園園長）

馬 場 耕一郎（社会福祉法人友愛福祉会理事長）

日 吉 輝 幸（石川県・平和こども園園長）

1. 総 評

総評 委員長 小林 芳 文

総 評

小 林 芳 文 (委員長)

日本保育協会では、保育士等の専門性の向上を願って、日々の保育実践を振り返り検証し、保育士等の取り組み状況や成果を「保育実践研究」として募集し、公に報告する機会を設けて来ました。そして、今回で第16回を迎えるに至りました。

保育実践研究の募集は、今年度も日本保育協会機関誌「保育界」4月号の付録として全会員の施設に募集要項を配布し、昨年11月の締め切りで研究報告を受付け、今回は過去最多の研究総数22件の応募がありました。私たち企画審査委員会では、保育士等からの応募が増え、研究内容や研究幅の広がりも見られたことを大変うれしく思っています。

令和2年から続く新型コロナウイルス感染症（感染力が強いオミクロン株）の影響により、保育施設においても感染症対策を強化したり行事等については中止、縮小しての実施など、コロナ禍以前とは違う状況に戸惑っていることも多いと思います。特に、子どもたちの間で感染が広がっていることから、密集した場所での遊び等を控える対策の強化が国により叫ばれています。早く収束に向かうことを願うとともに、子ども本来の姿が見られる豊かな環境に戻れることを切望しています。

さて、保育実践を通じて自分たちの保育を見直すことはどのような時でも重要です。今年度、このような状況にも関わらず、過去最多の応募があったことは、私たち企画審査委員にとりましても、元気な保育のエネルギーを感じるところです。

今回、第16回の実践研究の内訳は、課題テーマを選び研究を進めていただく「実践研究部門」で、①人との関わりには1件、②遊びと学びには6件、③子どもの健康・安全には3件、また、「第16回特別テーマ」として募集した④新型コロナウイルス感染症対策には1件、そして自由に幅広いテーマでの取り組みで研究を進めていただく「自由研究部門」には、11件であり、合わせて22件の応募がありました。

令和4年1月26日に開催しました「保育実践研究」企画審査委員会での厳正なる審査（各応募作毎に3名の委員）により、最優秀賞1件、優秀賞3件、研究奨励賞12件、奨励賞3件の各賞が決定しました。評価基準は、研究・報告の背景、目的等課題の明確さ、経過等具体的に記述されているか、独創性等で審査しました。

来年度、第17回の実践研究の募集につきましても、令和4年の保育界4月号に募集要項を同封して募集を開始することが決まっています。

企画審査委員会を代表して、全国から応募された保育士等全ての研究の応募者に対して、その努力を称え、今後の保育実践や保育内容の向上に資すべく活躍されることを切に願っています。保育士等が日頃の成果をまとめ検証することは、保育の専門性の向上のために、次世代の子どもの健康と幸福感のために大切なことです。以上、総評とします。

